

## アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN) - 当該地域の22ヶ国\*が参加する地球変動研究に対する競争的な研究資金を提供する機関 -

### [位置づけ]

- アジア太平洋地域の地球環境研究支援ネットワークとして1996年に設立。
- 我が国は、米国(米国国立科学財団)とともに、最大の拠出国として、APNを支えている。

### [目的]

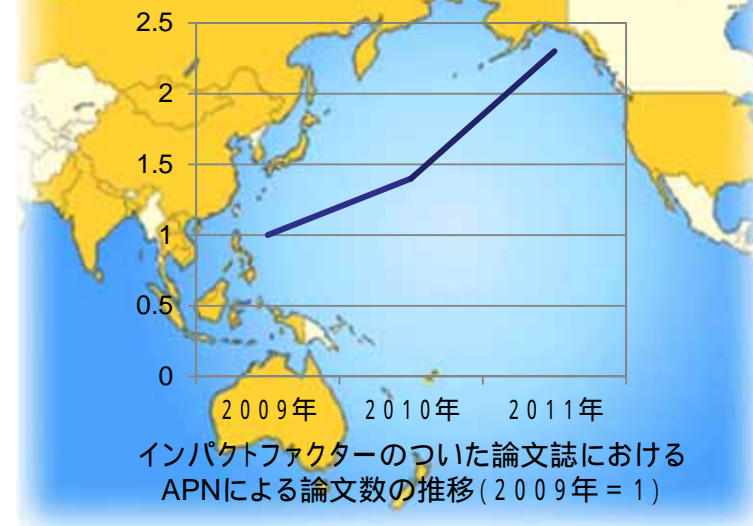
- アジア太平洋地域における地球変動に関する国際共同研究の推進
- 地球変動研究に係るデータの標準化、収集、分析、交換
- 開発途上国の科学的能力の向上
- 他地域のネットワークとの協力促進 等

### [成果]

- 国連気候変動枠組み条約 (UNFCCC) で地域研究プログラムとして認知され、科学技術のキャピタル活動として評価。
- 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) に研究成果が引用されている。
- 生物多様性分野でもUNFCCCへのインプットおよび SATOYAMAイニシアティブの推進にも貢献。

\* オーストラリア、バングラデシュ、ブータン、カンボジア、中国、フィジー、インド、インドネシア、日本、ラオス人民民主共和国、マレーシア、モンゴル、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、大韓民国、ロシア連邦、スリランカ、タイ、アメリカ合衆国、ベトナム

### APNによる研究件数は順調な伸びを見せている



公募型共同研究  
(1998 ~ 2011年度迄実績)  
**累積235案件**

キャパシティ・ビルディング型研究  
(2003 ~ 2011年度迄実績)  
**累積123案件**

# 東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (EANET)

## (設立経緯)

- ・ 東アジア地域における近年のめざましい経済成長等に起因して、酸性雨の原因となる大気汚染物質の排出量が増加しており、その影響が深刻なものとなることが懸念。
- ・ 我が国のイニシアチブにより2001年1月から本格稼働を開始。

## (目的)

- ・ 東アジア地域における酸性雨問題に関する共通理解の形成促進
- ・ 酸性雨防止対策に向けた政策決定に当たっての基礎情報の提供
- ・ 東アジア地域における酸性雨問題に関する国際協力の推進

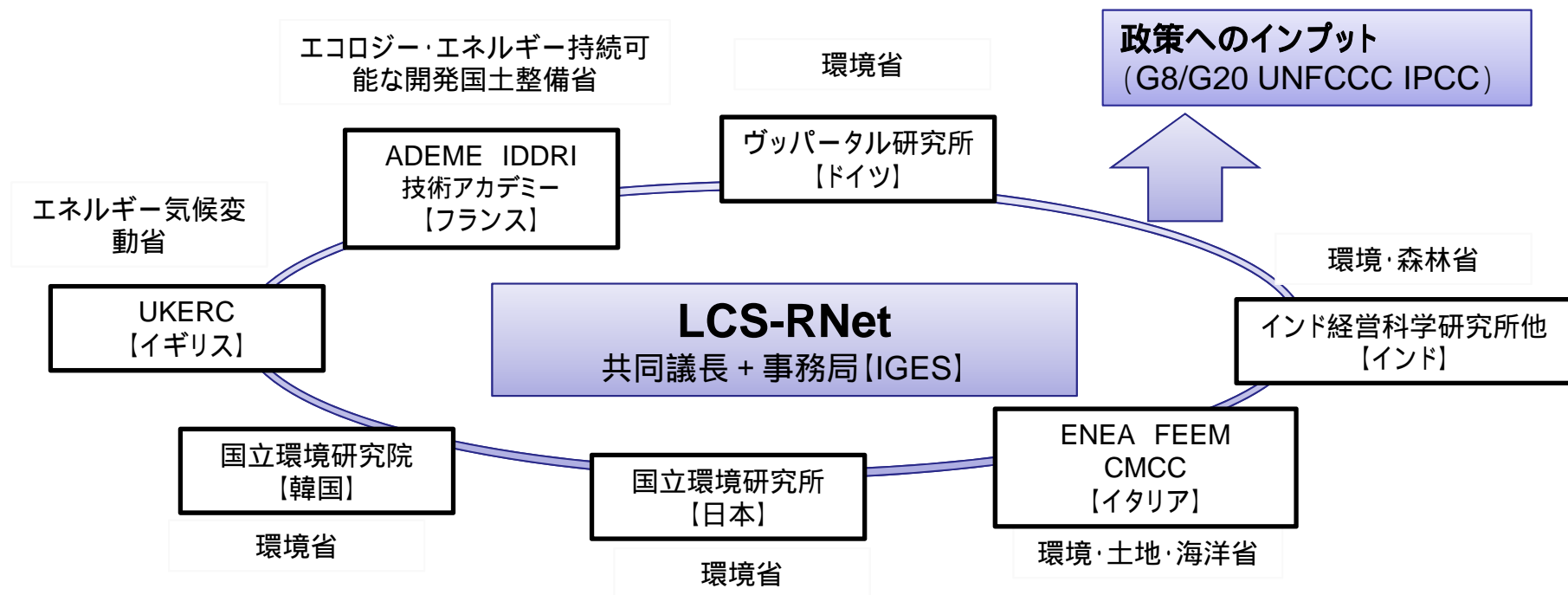
「酸性雨」から「地域大気汚染」へ、「観測」から「管理」へとスコープの拡大を図る。

➤ 越境大気汚染の国際合意形成に向け、越境大気汚染シミュレーションモデルの改善・精緻化等を実施。

***EANETの発展・拡大等を通じ、地域の大気環境管理を推進***

# 低炭素社会国際研究ネットワーク（LCS-RNet）

- 低炭素社会の実現に向けた研究を促進するための研究機関で構成されるネットワーク
- 平成20年5月のG8 環境大臣会合(神戸)で、ネットワーク設立を各国が支持
- 平成21年4月のG8環境大臣会合(シラクサ)にて、発足が了承された
- 平成21年9月には第1回年次会合がイタリアのボローニャで、平成22年9月には第2回年次会合がドイツのベルリンにて開催された。平成23年10月には第3回年次会合をフランスのパリにて開催、平成24年9月に第4次年次会合をイギリスで開催予定
- 現在7カ国16機関が参加登録している



# 低炭素社会国際研究ネットワーク（LCS-RNet）の展開

## アウトプット (活動)

- ◆ 低炭素シナリオ・技術ロードマップ(2050年からバックキャストしたGHG排出削減パスに基づく長期の低炭素政策のデザイン)
- ◆ 低炭素社会へのTransitionのための学際的研究ニーズ対応
- ◆ 研究者と政策決定者との対話促進

## アウトカム (成果)

- ◆ カンクン合意で各国において低炭素成長戦略を策定することに合意
- ◆ アジア地域への低炭素シナリオ研究の拡大

## インパクト (効果)

- ◆ 世銀等による途上国の低炭素成長戦略策定支援
- ◆ 東アジアパートナーシップ対話会合で、低炭素アジアネットワークの立ち上げを宣言

研究成果の政策への転換

# 低炭素アジア研究ネットワーク (LoCARNet)

低炭素発展政策形成に貢献している研究コミュニティで構成される、アジアにおけるネットワーク

国際的な政策の場へのインプット (G8/G20 UNFCCC)

